

巻頭の辞

神戸市立病院紀要の第 60 巻が刊行の運びとなりました。昭和 36 年度の創刊以来 60 年、神戸市立病院紀要が大きな節目とも言える還暦の歳を迎えました。60 年にわたって本紀要の刊行に携わって来られた諸先輩方と現編集部の皆様の大変な御努力と業績に想いを致し、改めて敬意と感謝の念を表したいと存じます。

本紀要が担っている大きな役割として神戸市民病院機構の各病院で行われた学術業績や CPC その他の症例検討を記録し、臨床現場の取り組みを機構内で共有することがあります。これについては創刊以来変わることなく今後も連綿と続いてゆくであろう本紀要の重要な使命です。一方、この 60 年で本誌を取り巻く医学医療関連の出版環境は大きく変化しました。いまや国内外において医学薬学はもとより医療関係の様々な分野で多種多様な学術誌が続々と刊行され、さながら百花繚乱の様相を呈しています。投稿先には事欠くことの無い中で英文論文を含む力作揃いの原著論文を投稿して下さった著者の方々には深く感謝申し上げます。対外的な学術発表の場としての本誌の立ち位置も創刊当時とは随分と変化してきたものと思われませんが、本号については、未曾有の新型コロナパンデミックに全力で対峙してきた神戸市民病院機構の様々な取り組みが貴重な論文としてまとめられ、対外的にも強い発信力を有する号となりました。これからの本紀要の学術誌としての対外発信のあり方に大きな示唆を与えてくれる号になったと思います。大変に読み応えのある神戸市立病院紀要還暦号、どうぞじっくりとお読み下さい。

神戸市立神戸アイセンター病院

院長 栗本康夫